

ロンドンに残る緑丘人の筆蹟

ロンドンの日本クラブに、昭和四年より十一年迄「日本倶楽部来館者署名簿」が残っている。五〇年の歳月をこの名簿は奇蹟的に過したが、革の背はポロボロになっている。

当時の日本倶楽部は談話室、ビリヤード、食堂などを備えた立派なもので、日本レストランなど数へる程しかなかった当時では、滞在者にとっても、旅行者にとっても本当に心の洗濯の出来る憩いの場所であったという。

したがって、ここを訪れた人々の中には福田赴夫(前首相)、檜橋渡など後に政治家として名をなした人、正宗白鳥、久米正雄、吉屋信子などの作家、実業界の著名人も数多い。

私は日本クラブ会報「びつぐ・べん」

にこれ等の著名人についての記事を書くべく、今年の夏の暑い日に日本クラブに行き、来館者名簿を繰っているうちに、I. Hamabayashi というサインを発見した。紹介者(クラブのため、非会員は会員の紹介がなくては入れない)、が「加地幸一」となっている。まさしく浜林生之助先生が、当時堀越商会の駐在員をされていた先輩の加地幸一氏の紹介で来館されたのであり、三、四回来館されている。

私達が緑丘生の頃、先生は学生部長でもあられた。授業は厳しかったが、今になってみると実に為になったと思ひ、このサインを見て、先生の慈愛に溢れ、時

に皮肉を交じえた御顔とひげをなつかしく思い出した次第です。

この名簿には大熊信行先生の署名もありません。小樽時代のものか、高岡高商に移られてからのものか、私には判りませんが。

また、大先輩で緑丘会長でもあられた佐々木周一氏の署名もあります。当時、三井物産船舶部駐在員でしたが、非常に勉強されて、海事仲裁人の資格をとられたことを数年前に加地先輩より承ったことがあります。

この来館者名簿は日本クラブで閲覧出来ます。(大庭定男 昭17)

フランク・ダニエルズ先生

逝去さる

ロンドン大学、日本学名誉教授フランク・ジェームズ・ダニエルズ氏は八月九日ロンドンの自宅で心臓まひのため逝去された。享年八十三才。

先生はロンドン大学経済学部を卒業後、昭和八年、小樽高商に赴任され、英語を教えられた。また、ここで西出おとめさんと出会い、結婚された後、静岡高校に移られたが、日本人に如何に英語を教え、また外人に如何に日本語を教えるかをライフ・ワークとされるようになった。

昭和十六年、英国に帰国、その十二月には太平洋戦争となり、早急に日本語要員の養成を必要とした英軍部は、ロンドン大学アジア・アフリカ学部(略称SOAS)で学卒者の中から優秀な者を選抜し、日本語の教育を始めた。この教育を親日家として有名なピゴット少将とともに

に組織、運営して行ったのがダニエルズ先生であり、その生徒には、現駐日大使ヒュー・コタッチ卿、R・ドアー、C・ダン、G・ボーンラス各教授など現在の英国の日本学の大御所など知名人が多い。この教育にはおとめ夫人も参加、日本の風俗習慣などを教え、学生には非常に魅力的であったという。

また、この日本語学校の先生はダニエルズ先生のような親日家が多かったため、敵国であり乍ら、親日の雰囲気溢れ、日本に敵意をもったものは居なかったと、ある卒業生は述懐されている。

戦後、SOASの日本学部は拡充され、生徒数も増え、先生はその教育とともによく面倒を見られたという。おとめ夫人の世話になったという人も多い。先生の代表的な著作で、日本でも有名な Basic

English Writer's Japanese-English word-book も出版された。

多くの学生を育て、日本学の振興に貢献された先生は一九六七年に引退されたが、一九七八年、国際交流基金賞を受賞された。

告別式は八月廿三日、ロンドン北部の教会で行われたが、戦中の教え子であるR・ドア教授が先生の人柄を述べられ、ついでC・ダン教授がその学問的業績を披露され、三曲の日本音楽の奏でるうちに式を終えた。私はこれに参列、大谷敏治先生よりの弔電を遺族にお伝えした。

戦前、英国よりはるばる小樽まで行き、吾々の先輩を教えられたR・ストリー先生につづき、ダニエルズ先生を失うことは誠に悲しいことである。そして両先生ともに、日・英をつなぐ大きな架け橋となられた。このような大先生がひとしく愛された緑丘の偉大さと歴史の重みをおぼえて感じさせられる。

(一九八三年八月廿五日)

ロンドン支部 大庭定男 昭17)

緑丘

・目次・

第44回 通常総会報告	2
◎昭和59年新年交礼会のお知らせ	7
特集 緑丘は今……その将来	
母校の復権を願って	竹村 保昭 8
中からみた緑丘	早見 弘 15
ちょっと早い緑丘の初夢	鷹木 護 20
恩師近況	
教壇生活を終えて	松尾 正路 23
近況と雑文	武隈 良一 24
返信	木曾 榮作 25
随想／紹介／案内	
ロンドンに残る緑丘人の筆蹟	大庭 定男 26
フランク・ダニエルズ先生逝去さる	大庭 定男 27
還りなん、いざ“緑丘”へ	津村 謙二 28
緑丘の思い出	石川 栄治 31
小樽運河埋め立てに見直し論	32
句苑緑丘	33
『緑丘』誌を読み直してみたの所感	高橋 光助 34
夢—その多様な世界—	山口 文雄 36
大野純一先生追想集の発刊迫る	飯川 益男 39
故加茂儀一先生の「レオナルド・ダ・ヴィンチ伝」	
遺稿刊行会 発起人のお願い	42
尾形圭介画伯二紀会委員に推挙さる	44
物故会員	47
平山画伯の絵画展示即売会	48
学園だより	50
支部だより	52
同期会だより	53
会館利用日誌	74
会員異動通知	77
緑の紙風船	124
編集後記	132

表紙画 尾形圭介(二紀会・昭34)

安心への指針



損害保険の東京海上

保険の歴史は、海から始まりました。航海をより安全、確実なものにするために羅針盤がつけられたように、海難による経済的損失を少しでも減らしたい、という人々の知恵が海上保険を生み出したのです。

そして、現代。火災・交通事故…などいろいろな危険に備える保険が開発され、私たちの安心な暮らしに役立っています。

東京海上は明治12年(1879年)の創業から一世紀余、これからも業界のリーディングカンパニーとして、確かな明日を見つめてまいります。

東京海上火災保険株式会社
〒100 東京都千代田区丸の内1-2-1
TEL. 03(212)6211

緑丘



Green Kazumasa
22ND DYNASTY
C. OGATA

社団法人 緑丘会

緑丘 (第五六号)

昭和五十八年十二月二十日

人間の豊かさを求めて—

道を拓き 街を築く



緑丘会東京事務所

東京都豊島区東池袋三二一サンシャイン60(57階)
電話〇三(九八)二三四〇

社団法人 緑丘会



59.1.9

世紀東急工業株式会社

取締役会長 八木勇平 (昭和8年卒業)

取締役社長 大島秀信

東京都港区芝公園2丁目9番3号 電話東京03(434)3251(大代表)